

■昭和小学校 5年 社会「米づくりの盛んな地域」

授業のねらい

○米づくりに携わる人々がどのような工夫や努力をして米を生産しているか予想し、その予想をもとに学習計画を立て、探究の見通しをもつ。

タブレット端末活用の工夫／教育データ活用の工夫

- ①ムーブノートの活用。班ごとの広場に入り、各自の意見を記入する。
- ②ファシリテーターを中心に班ごとに話し合い、課題を設定する。
- ③各班で設定された課題をみんなの広場で全体共有する。

米作り盛んな地域では、どのような工夫や努力がされているのか、予想を書いてみよう。

人手不足だから機械をたくさん使って作業をする
米を食べる人が減ってあまり売れなくなったから米作りだけではなくて他の仕事でお金を稼ぐ
米を使った料理をSNSを使って広める
土地の特徴を生かして収穫の時期をずらして決まった時期以外にも米を食べてもらえるようにする

米作り盛んな地域では、どのような工夫や努力がされているのか、予想を書いてみよう。

- ・米を使った料理がふえている。
- ・地球温暖化が進んでいるから米を品種改良している。
- ・機械をつかってはやく収穫をしている。
- ・youtubeを使っている。

児童の様子

- やるべきことが明確なので、どの児童も主体的に取り組むことができた。
- 友達の意見を聞きながら、意見を付け加えたり、自分の考えを修正したりする様子も見られた。

班ごとの課題を決めましょう。

今まで日本が親しんできた米だが、今、生産量がどんどん減ってるのでこれから米はどのような結果になってしまうのか。また、その回避方法としてどのような収穫の工夫をするのか。

成果

- ノートに文字を書くことが苦手な児童も、端末を用いることで自分の考えを簡潔に表すことができた。
- 端末を見せながらスムーズに話し合うことができた。
- CSV形式出力により、授業の振り返りに活用できる。

課題

- カードに長文を書く児童もいたが、何を伝えたいのか視覚的にわかりにくい。カードに記入する際は、箇条書きや短文で書き表すよう指導が必要である。